

【はまなす】

北海道の稚内からサロベツ原野を通過して天塩に至る道道106号線はライダーの憧れの道であるが、この道の沿線には「はまなす」の大きな株が見られた。

オホーツクの浜頓別にあるベニヤ原生花園にも大きな株も見られたから、北端の冷涼な気候は「はまなす」の成長にはあっているのだろう。

もっとも礼文島には大きな株はなかったため、ある程度の日照も必要である。

繁亭金太の時代にも、「はまなす」は江戸で栽培されていた。斑入りはないので、もっぱらその芳香が好まれたのであろう。



(2007年5月3日撮影)

庭の「はまなす」は2代目であるが、5～6年経ったものである。

園芸品種であるから、接木である。土台から出た新しい芽は切った方がよいのか、そのままの伸ばすべきか、思案中である。

Copyright (C) 2007 増田信敬 All rights reserved